

ヤマハ株式会社 会社案内 2023



ヤマハの歴史は1887年、創業者である山葉寅楠がリードオルガンの修理をきっかけとして、オルガン製作に成功したことに始まります。以来130年以上にわたって、楽器を中心とするさまざまな製品・サービスを提供し続け、世界中で広く親しまれるブランドとなりました。

私たちは
音・音楽を原点に培った技術と感性で
新たな感動と豊かな文化を
世界の人々とともに創りつづけます。

MESSAGE

FROM THE PRESIDENT

より多くのお客様にヤマハならではの 価値を提案し 「世界中の人々のこころ豊かなくらし」 の実現を目指します

ヤマハグループは「感動を・ともに・創る」を企業理念として共有し、音・音楽を通じて「世界中の人々のこころ豊かなくらし」に貢献することを目指しています。ブランドプロミスには、お客様が心震わす瞬間を表現した「Make Waves」を掲げ、1887年の創業以来受け継がれてきたお客様目線のものづくりをさらに推し進め、人々の心に響く製品・サービスを届けていく決意を示しています。

当社は中長期的に目指す姿として、経営ビジョン「『なくてはならない、個性輝く企業になる』～ブランド力を一段高め、高収益な企業へ」を定めています。お客様や社会のニーズを深く理解し、本質の追求や独自の価値提案を通して、お客様の心からのご支持をいただき、輝く個性を持った存在になるという意味を込めています。

2022年4月にスタートした3か年の中期経営計画「Make Waves 2.0」では、ポストコロナの新たな社会で持続的な成長力を高める取り組みを進めています。物質的な豊かさだけでなく、本質的な心の豊かさを求める人々が増え、サステナビリティへの意識もより一層高まっています。当社は世の中の変化にいち早く対応し、音・音楽を原点に培った「技術×感性」を強みとしてさまざまな変革を起こし、社会の要請にお応えしてまいりますと考えています。

直近では、米国のギター製造・販売会社 Córdoba Music Group, LLC (コルドバ社) をヤマハグループに加えたほか、経済成長が期待されるフィリピンに楽器・音響機器販売現地法人を新設するなど、より幅広いお客様へ音楽の楽しみを届けるための基盤を強化しています。

私たちヤマハグループは、お客様それぞれの挑戦への勇気や情熱を応援し続ける企業でありたいと考えています。これからも皆様の期待にお応えし、末永くお付き合いいただける会社であり続けられるよう誠心誠意努力してまいりますので、何卒ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2023年9月

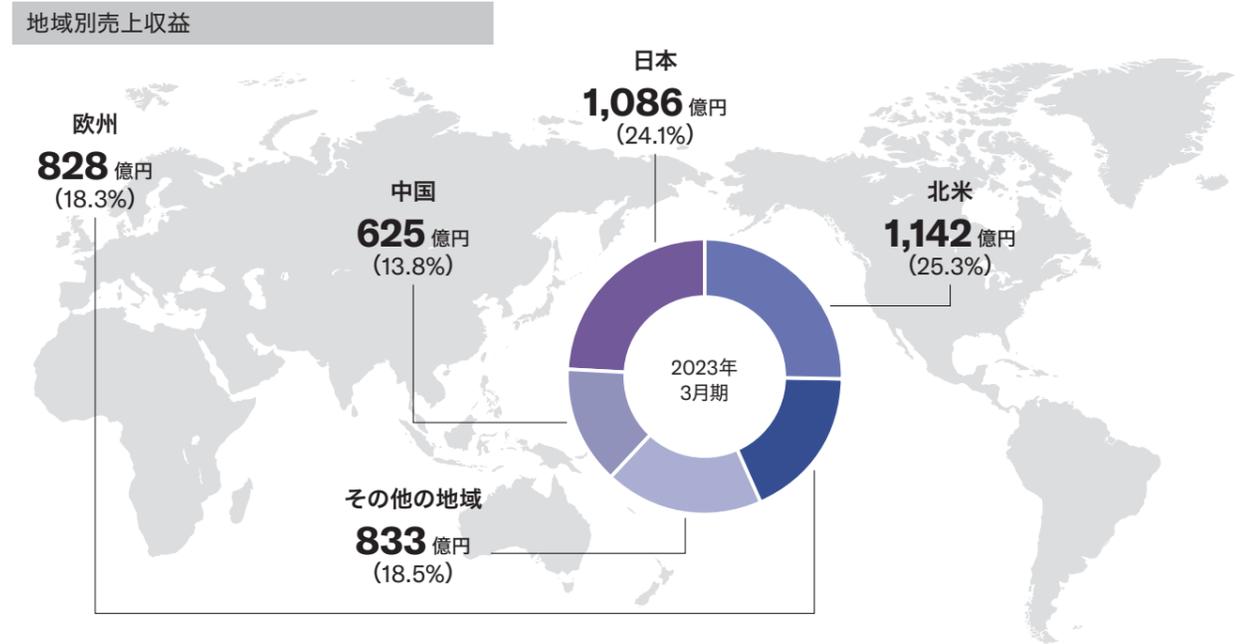
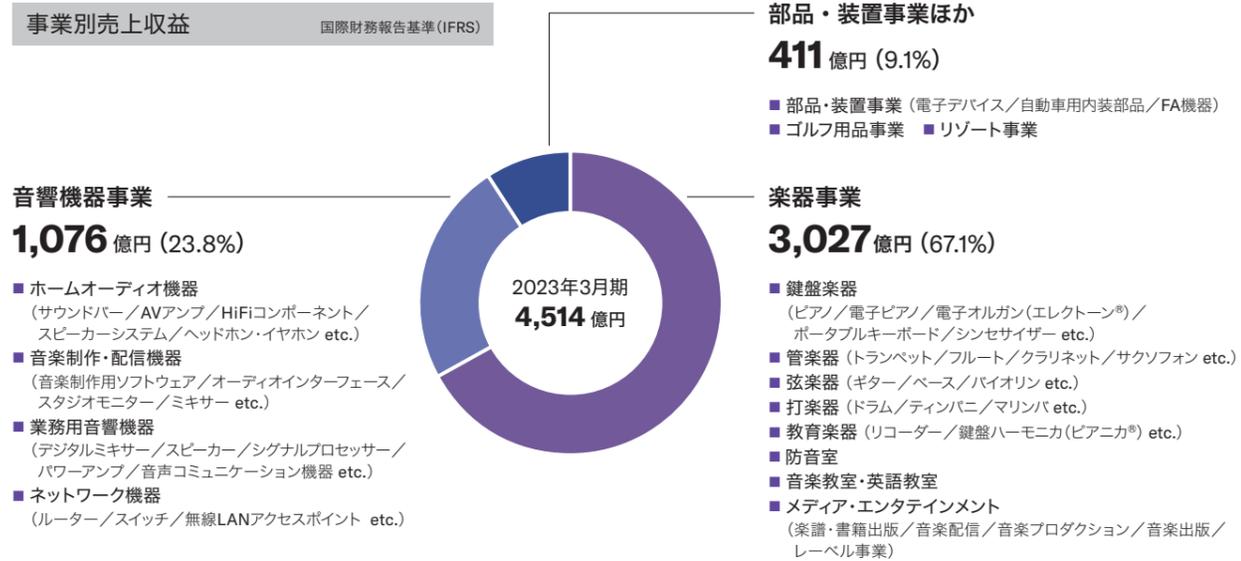
ヤマハ株式会社 代表執行役社長

中田卓也



ヤマハの事業概要

「楽器事業」「音響機器事業」「部品・装置/その他の事業」の3つの領域で、グローバルに事業を展開しています。

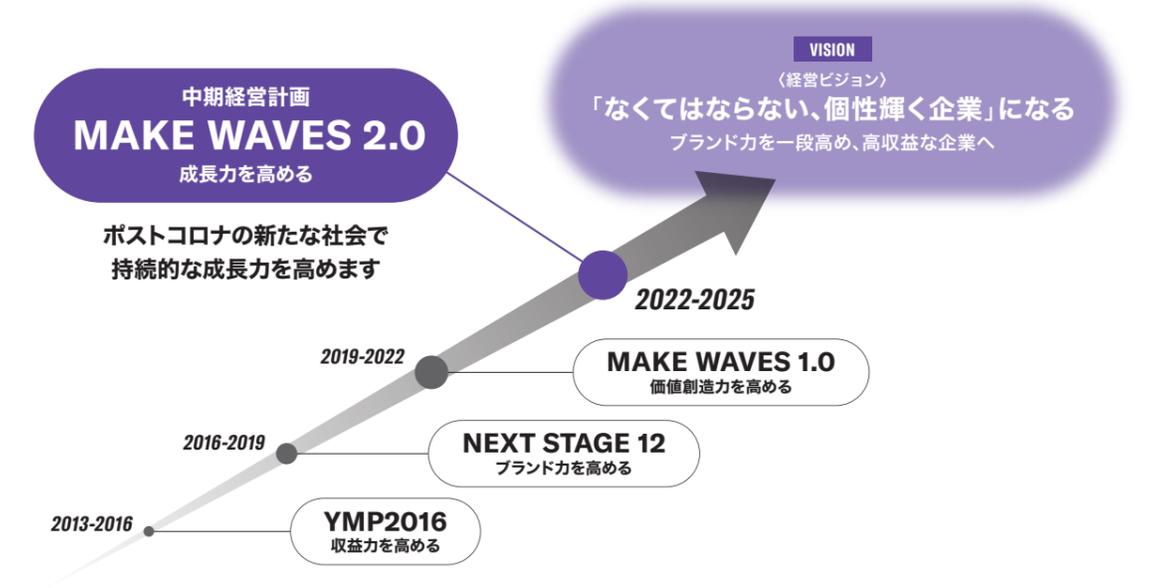


中期経営計画 (2022年4月~2025年3月)

新たな社会で持続的な成長力を高める

ポストコロナの「新たな社会」への移行が進む中、「世界中の人々のこころ豊かなくらし」の実現を目指すヤマハは、この環境変化を大きな成長の機会と捉えています。2022年4月からの3年間で「新たな社会で持続的な成長力を高める」期間と位置付け、さらなる企業価値の向上に挑戦しています。

MISSION
 (ヤマハが目指すもの)
世界中の人々のこころ豊かなくらし
 (企業理念)
感動を・ともに・創る



マテリアリティ(重要課題)と中期経営計画方針

顧客	・顧客との繋がり ・サービスを組み入れた新たな価値の提供
技術	・最先端技術と感性の融合による新価値創造 ・オープンイノベーションの創出
ものづくり	・クラフトマンシップとテクノロジー ・レジリエンスの強化
品質	・絶対的な顧客信頼を得る品質
DX	・新たな価値の創造と様々な分野でのプロセス変革
ガバナンス	・グループガバナンスの強化

マテリアリティ

事業基盤 事業活動における重要な経営課題

人材 社会・企業の資産である人材に係る重要な経営課題

環境・社会 社会の一員である企業としての重要な経営課題

人材	・働きがいの向上 ・人権尊重とDE&I* ・風通しが良く、皆が挑戦する組織風土の醸成
環境	・気候変動への対応 ・持続可能な木材の利用 ・省資源、廃棄物・有害物質削減
社会	・平等な社会と快適なくらしへの貢献 ・バリューチェーンにおける人権尊重
文化	・音楽文化の普及・発展

*DE&I: Diversity, Equity, and Inclusion

中期経営計画 基本方針 「新たな社会で持続的な成長力を高める」

- 〈方針1〉 **事業基盤をより強くする**
- 〈方針2〉 **サステナビリティを価値の源泉に**
- 〈方針3〉 **ともに働く仲間の活力最大化**

ヤマハWebサイト「投資家向け情報:中期経営計画」 <https://www.yamaha.com/ja/ir/medium-term/>

事業紹介

音・音楽を中心にした事業を通じて磨いてきた感性と多彩な技術を融合し、楽器、音響機器、部品・装置などの事業領域で、ヤマハならではの価値を生み出しています。



楽器事業

楽器の製造・販売、音楽教室等の運営、音楽・映像ソフトの制作・販売など多彩な事業を展開。初心者からプロフェッショナルまで幅広いユーザーに評価されるこれらの製品・サービスは、アーティストとの対話により進める研究開発やグローバルに展開するきめ細かな営業・サービス活動に支えられています。

鍵盤楽器

130年を超える歴史の中で培われた知見と熟練技能に裏付けられたアコースティックピアノから、先進のデジタル技術を駆使した電子楽器、そして、これらの技術の融合により生まれたハイブリッドピアノまで、豊富なラインアップを提供しています。



コンサートグランドピアノ
CFX®



ハイブリッドピアノ
AvantGrand® N3X



電子ピアノ
Clavinova® CLP-785PE



ベーゼンドルファー
Bösendorfer
グランドピアノ
Camellia



エレクトーン
STAGEA® ELS-02C
(カスタムモデル)



電子キーボード
Piaggero® NP-35



ステージキーボード
CK61

アーティストに愛される最高の楽器・サービスを目指して

ヤマハは、東京、ニューヨーク、ロンドン、ハンブルクなど世界の主要都市にアーティストサービス・R&D (研究開発) の拠点をもち、アーティストが最高の演奏ができるようきめ細かくサポートするほか、世界中の演奏家に愛用される最高の楽器づくりのために、さまざまな形でアーティストと協働しています。高い技術とノウハウを生かした楽器のメンテナンスや修理、調律などでアーティストの信頼に応えるとともに、演奏家の求める音を表現する楽器を提供するためにアーティストとの対話を大切に、製品開発に役立てています。

写真提供：浜松国際ピアノコンクール



管楽器

50年以上にわたる管楽器製造で培った匠の技と、木材・金属を精密に加工する生産技術力を結集して、最高の音色、響きと吹奏感を生み出しています。



カスタムトランペット
Xeno® Artist Model
YTR-9335CHS



カジュアル管楽器
Venova® YVS-100



カスタムアルトサクソフォン
YAS-875EX



デジタルサクソ
YDS-150

弦楽器

アコースティック、エレクトリックに加え、ヤマハ独自のサイレント™シリーズまでカバーする弦楽器は、多くの人に演奏する楽しみを提供しています。



アコースティック
バイオリン
Artida®
YVN500S



ラインシグナス
Line 6
マルチエフェクト・ペダル
Helix®



エレキギター
REVSTAR® RSP20



アコースティックギター
FG9



エレクトリック
バイオリン
YEV104



コルドバ
Córdoba
エレクトリック
ナイロンギター
Stage



アンペグ
Ampeg
ベースアンプ
Rocket Bass®



サイレントギター™
SLG200S

打楽器

世界中のトップアーティストとともに追求してきた音・打感、そして高い信頼を得てきた操作性・堅牢性により、プレーヤーのパフォーマンスを最大限に引き出します。



アコースティックドラム
Live Custom®
Hybrid Oak



電子ドラム
DTX®6シリーズ



コンサートマリンバ
YM-6100

教育楽器

リコーダーやピアノなどの教育楽器の提供を通じて、子どもたちに音楽の楽しさ、演奏する喜びを伝えています。



ピアノ®
P-32E



ソプラノリコーダー
YRS-401
(バイオマス素材使用)

防音室

楽器の演奏はもちろん、動画配信用のプライベートスタジオや在宅勤務などにも幅広く使える防音室。室内の音が心地よく聞こえるよう調音されており、用途を問わず最適な音環境をつくり出します。



アビテックス®
CEFINE NS

音楽教室・英語教室

世界の40以上の国と地域で幼児から大人までを対象に音楽教室を展開し、楽器演奏人口の拡大と音楽文化の普及に貢献。英語教室は、歌やリズムで楽しく生きた英語が身につくヤマハならではのレッスンが人気です。



ヤマハ音楽教室



ヤマハ英語教室

メディア・エンタテインメント

楽譜出版、音楽および楽譜の配信、アーティストマネジメント、音楽出版(著作権等の管理)、レコードレーベル等、ヤマハのエンタテインメント関連の事業を幅広く展開しています。



音楽ソフト
中島みゆき『世界が違って見える日』



書籍

自宅から音楽でつながる — オンライン遠隔合奏サービス SYNCROOM®

独自の低遅延音声データ伝送技術により、インターネット回線を介した遠隔地間の音楽合奏を実現し、最大5拠点のユーザーがオンラインセッションを楽しめるサービスSYNCROOM。自宅などのパソコンやスマートデバイスにアプリケーションをインストールし、ユーザー登録を行うことで、誰もが気軽に遠隔セッションを楽しむことができます。コロナ禍で外出が制限される中、不自由な日常を変えた点が評価され、「2020年日経優秀製品・サービス賞」で「最優秀賞」を受賞しました。2023年6月には日本に加えて韓国でサービスを開始し、英語・韓国語にも対応。ユーザー同士が国境を越えてセッションすることができるようになりました。



「SYNCROOM」アプリ画面イメージ



音響機器事業

「音・音楽」をコアとして培ったデジタルとアコースティックの技術を生かし、コンシューマー向けから業務用まで多彩なソリューションを提供しています。ホームオーディオ機器、音楽制作・配信機器、業務用音響機器、ネットワーク機器まで幅広い製品で構成されています。

ホームオーディオ機器

イヤホン・ヘッドホンから、サウンドバー、そして本格的なホームシアターやHiFiオーディオまで、多彩な音楽の楽しみ方を提案しています。音楽の感動を知り尽くしたヤマハが、目の前でアーティストが演奏しているかのような本物の音体験—True Sound—を届けます。

フラッグシップヘッドホン YH-5000SE

AVレシーバー RX-A8A

サウンドバー SR-X40A

HiFiフラッグシップスピーカー NS-5000

ワイヤレスホームシアターヘッドホン YH-L700A

HiFiコンポーネントネットワークレシーバー R-N2000A

ポータブルPAシステム STAGEPAS® 100

ゲームストリーミングミキサー ZG01 PACK

パワースタジオモニター HS5

ライブストリーミングミキサー AG08

音楽制作・配信機器

ソフトウェア技術とシームレスに融合した音楽制作機器は、音楽をつくる楽しみを身近にし、より表現力豊かな音楽制作を可能にします。また、直感的な操作と独自の音声処理を備えた配信機器は、配信者と視聴者双方に没入感の高い音楽・ゲーム体験を提供します。

Steinberg
デジタル・オーディオ・ワークステーション・ソフトウェア
Cubase® Pro 12

業務用音響機器

オーディオネットワーク技術を生かしたヤマハの業務用音響機器。世界の著名なホール、劇場、コンサート会場などに導入されているだけでなく、店舗、会議場などの商業空間に向けた音のトータルソリューションも提案しています。

デジタルミキシングシステム RIVAGE® PMシリーズ

NEXO スピーカーシステム Plusシリーズ

サーフェスマウントスピーカー VXS1MLW

ペンダントスピーカー VXHシリーズ

ビデオサウンドバー CS-800

ビデオコラボレーションシステム CS-500

遠隔会議用ワンストップサウンドソリューション ADECIA®

ユニファイドコミュニケーションスピーカーフォン YVC-330

ネットワーク機器

業種を問わず、中小規模の企業拠点や店舗などに広く採用されており、ルーターやスイッチ、無線LANアクセスポイント、セキュリティ機器などで安定したネットワークを提供しています。

10ギガアクセスVPNルーター RTX1300

標準L3スイッチ SWX3220-16MT/SWX3220-16TMs

Wi-Fi 6対応無線LANアクセスポイント WLX222

UTMアプライアンス UTX200

世界中の会場でコンサートやイベントを支える業務用音響機器

ヤマハの業務用音響機器は、音質の良さやレスポンスの良い操作性、プロフェッショナルな現場で求められる信頼性、最先端のオーディオネットワーク技術などを評価され、小規模なイベントから大型のコンサートホールまで幅広い会場で採用されています。ヤマハのデジタルミキサーやプロセッサとともに、NEXOのスピーカーシステムやSteinbergのソフトウェアが導入される例も多く、ヤマハグループの総合力を生かしたソリューションを提供しています。また、会議室や店舗などの商業空間向け音響の分野においてもトータルソリューションを提案しています。



米国カリフォルニア州のイーストサイド・クリスチャン教会

主な納入事例

- 新国立劇場 (東京都)
- 東京国際フォーラム (東京都)
- JR東日本四季劇場 (東京都)
- 札幌ドーム (北海道)
- 兵庫県立芸術文化センター (兵庫県)
- ロンドン交響楽団 (英国)
- フー・ファイターズ ワールドツアー

商業空間向け音響

- ジョン・F・ケネディ国際空港 (米国)
- インターコンチネンタル ダボス (スイス)

快適で円滑なオンラインコミュニケーションを実現するために

ヤマハはビジネスコミュニケーション分野での長年の経験と、音響分野で培ってきたノウハウを生かし、音声コミュニケーション機器・ネットワーク機器を提供しています。新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに在宅勤務や遠隔授業などが広がる中、これらの機器の需要が高まっています。今後も、企業や学校などで、また在宅勤務時に、クリアな音声配信環境・安全なアクセス環境を構築するためのソリューションを提供していきます。



遠隔会議用ワンストップサウンドソリューション ADECIAシーリングソリューションが設置されたコクヨ(株)品川ライブオフィス(左)と京都大学基礎物理学研究所(右)

部品・装置事業ほか

電子デバイス、自動車用内装部品、FA (Factory Automation) 機器からなる部品・装置事業と、ゴルフ用品事業およびリゾート事業でも、楽器の製造・販売を通じて蓄積した技術・ノウハウを生かして、お客様に満足いただける製品とサービスを提供しています。

部品・装置事業

電子デバイス

電子楽器や音響機器の開発で培った技術力をベースに、画像・音源・DSP・アンプなどのLSI製品をさまざまな市場に提供しています。最近では、音に関する課題を解決するソリューションとして、高音質な車載オーディオや車載ハンズフリー通話モジュールを自動車メーカーに提供するなど、事業領域を拡大しています。



自動車用内装部品

ピアノ製造で培われた木材加工や塗装の技術と精密成形技術、デザイン力を融合し、高級車向けに内装部品を提供しています。



天然木材の魅力を生かしたウッドパネル

FA機器

ヤマハの生産技術とシステムエンジニアリングで差別化を図り、信頼性の高い機器を製造しています。



ゴルフ用品事業

ヤマハが持つ技術力と契約プロゴルファーからのフィードバックを生かし、機能と感性を両立させた魅力あるゴルフクラブを開発しています。



ゴルフクラブ RMX® VD/M (左) アイアン (右) ドライバー

リゾート事業

豊かな自然の中で非日常の空間と高品質なサービスを提供し、ヤマハにしかできない豊かな時間を創り出しています。



デザイン Design

日本ではデザイン機能を持つ企業が少なかった1963年、ヤマハはデザイン部門を設立しました。以来、国内外のデザイナーやトップアーティストとの協働などを通じて経験と実力を蓄積し、創業100周年を迎えた1987年に、ヤマハデザイン共通のアイデンティティとして「デザイン理念」を制定しました。こうした基本的考え方をもとにお客様とのあらゆる接点をデザインし、お客様の期待を超える製品・サービスの実現を推進しています。

5つのデザイン理念

- INTEGRITY** 本質を押さえたデザイン
- INNOVATIVE** 革新的なデザイン
- AESTHETIC** 美しいデザイン
- UNOBTRUSIVE** てしゃばらないデザイン
- SOCIAL RESPONSIBILITY** 社会的責任を果たすデザイン

本質を押さえつつ革新するデザインで、新たな価値を創造

完全ワイヤレス Bluetooth® イヤホン TW-E7B



reddot winner 2023
DESIGN AWARD 2023

ライブストリーミング USBマイクロフォン AG01



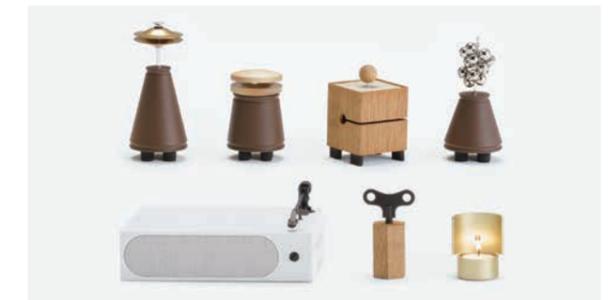
2022年グッドデザイン賞

カジュアル管楽器 Venova® YVS-120 / YVS-140



reddot winner 2022 best of the best
DESIGN AWARD 2022
GRAND AWARD 2022
令和5年度 全国発明表彰 特許庁長官賞

デザインコンセプトモデル Stepping Out of the Slate



DESIGN AWARD 2022

「ミラノデザインウィーク2023」でヤマハの世界観を表現

ヤマハ(株)デザイン研究所は、世界最大規模のデザインイベント「ミラノデザインウィーク2023」に出展しました。大切な存在とともにあることの価値を象徴する展示タイトル「You Are Here」のもと、楽器とともに暮らすことが楽しくなる家具のような11種の作品を市内のギャラリーに展示し、連日のライブ演奏でデザインウィークを盛り上げました。



研究開発

Research & Development

世代を超えて受け継がれた熟練技能や音づくりへの感性。「良い音」「良い音響空間」をめぐる感性に関する深い理解と知見を活用し、アコースティック技術やデジタル・エレクトロニクス技術などのさまざまな技術を組み合わせることで、他社にはないユニークな製品・サービスを提供しています。



ヤマハの技術

楽器領域

ヤマハは、より豊かな音を届けるために、木材・金属などの素材の加工をはじめ、鍵盤・アクションのメカニズム、音源や音響に関連する技術の研究を重ねています。

木材改質技術
A.R.E.[®] (Acoustic Resonance Enhancement)

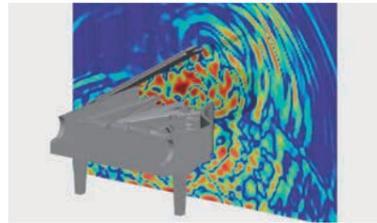
A.R.E.は短期間で木材を熟成させるヤマハ独自の木材改質技術。温度・湿度・気圧を高精度でコントロールする装置で、使い込まれた楽器のような深みのある音が出る木材へと変化させます。



A.R.E. 処理を施した木材で作られたバイオリン Artida[®] (アルティダ) YVN500S

アコースティック楽器における
振動・音響解析の研究

楽器本体の各部分がどのように振動し、その影響で楽器内部や周辺の空気がどのように振動し音が伝わるかなどの解析を、測定技術やシミュレーション技術を駆使しながら進めています。



ピアノの音を高精度な物理モデルに基づいたコンピュータ・シミュレーションで予測

音源システム
VCMオルガン・VCMロータリースピーカー

VCM技術により、トーンホイール方式の発音原理とロータリースピーカーの挙動をデジタルで忠実に再現。ピンテージオルガンの音の再現にとどまらず、個体差までも表現することが可能です。



VCMオルガン音源・VCMロータリースピーカーを搭載したステージキーボード YC88

音響機器領域

ホームオーディオ機器や業務用音響機器、ネットワーク機器などでは、デジタル信号処理やネットワークの技術を核とした最先端のエレクトロニクス技術を駆使し、付加価値の高い製品を提供しています。

イマーシブオーディオシステム
Sound Image Control (AFC Image)

あらゆる空間でイマーシブな音環境を創り出すオブジェクトベース方式の音像制御システム。最大128オブジェクトの音を自在にコントロールし、劇場やホールなどで臨場感あふれる体験を提供します。



マルチスピーカーによるAFC Image再生システム

快適な遠隔コミュニケーションを実現する
SoundCap[®] テクノロジー

「収音範囲制限機能」「マイク自動ミュート」「スピーカー音量自動調整」から成るヤマハの新しい音声信号処理技術。周囲の環境音が多く存在するオープンスペースでも、雑音を抑制することで快適な会話を可能にします。



オフィスのあらゆる場所で快適な遠隔会話体験を実現するスピーカーフォン YVC-330

全帯域で統一された音色を実現
HARMONIOUS DIAPHRAGM[®]

音速や内部損失に優れたZYLON[®] やグランドピアノの響板にも使われているスプルース材などを混抄して開発したHiFiスピーカー振動板。全帯域にわたって自然かつ正確な音色表現を実現します。



全ユニットにHARMONIOUS DIAPHRAGMを採用したフロアスタンディングスピーカー NS-2000A

価値創造の取り組み

ヤマハは、世界最大の総合楽器メーカーとして幅広い領域の製品を手掛ける中で、世界中の人々が良い音、良い音楽を楽しめるよう、最高の技術を追求してきました。そこから生み出された技術を有機的に結合しながら、新たな価値を創造し、お客様に驚きと感動をお届けすることを目指しています。

デジタルサクソ YDS-150

いつでもどこでも、思いのままにサクソフォン演奏
アコースティックとデジタルの融合によって生み出された「ペルー一体型アコースティック音響システム」。マウスピースから吹き込んだ息をブレスセンサーが検出、デジタル音源システムがスピーカーを駆動し、音と振動がイエアロプラス製ペルにまで伝わります。まるでアコースティック楽器を演奏しているような吹奏感と、自然で美しい音の響きを実現しました。



デジタルでありながら、楽器との一体感が楽しめるYDS-150

車載用立体音響技術

独自の信号処理技術により、車室内で立体音響に対応した映像・楽曲コンテンツに没入できる技術です。音の反射や共鳴が顕著で複雑な形状をした車室内でも、制作者の狙いを精度高く再現し、全てのシートで立体音響の圧倒的な没入感を体感することができます。また、安全面に配慮し、さまざまなセンサーが発する情報提示音を立体的な表現で再生するHMI (Human Machine Interface) システムの開発も進めています。



全シートで立体音響の没入感を楽しむことができるオーディオシステム

AIの活用に関する研究開発

ヤマハは、AI(人工知能)が人間による音楽創造の可能性を広げる新たなパートナーとなるよう、さまざまな研究を進めています。

AI合奏技術
プロジェクトセカイ・ピアノ

(株)セガ、(株)Colorful Palette、クリプトン・フューチャー・メディア(株)の協力により、iOS/Android向けリズム&アドベンチャー「プロジェクトセカイ カラフルステージ! feat. 初音ミク」に登場するキャラクターとの演奏を楽しめるピアノを製作。特定の楽曲を弾くと、ヤマハの「AI合奏技術」により、初音ミクをはじめとした同ゲームに登場するキャラクターが演奏に合わせて歌唱します。



2021年3月以降、ヤマハの楽器店などに設置された「プロジェクトセカイ・ピアノ」

AI歌声変換技術
TransVox[®]

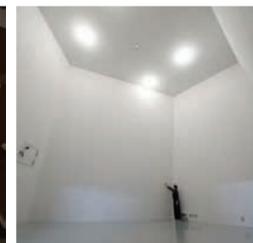
歌声の特徴や音の高低に応じた音色の変化など、歌い方の癖をAIに学習させることで、年代や性別を問わずどんな人の声でも特定の人の歌声に変換することができる技術。人の歌声を瞬時に分析し変換先の人の歌声をつくり出す仕組みにより、リアルタイムでの歌声変換を実現しました。今まで音楽に触れてこなかった人や、歌うのが恥ずかしい、声に自信がないという理由で音楽を苦手に思っている人にも「音楽の楽しさ」を知ってもらう機会を提供します。



TransVoxの技術を用いた「なりきりマイク[®]」イメージ画像

新たなイノベーションを創出する拠点「イノベーションセンター」

ヤマハのコア技術にさらに磨きをかけ、新たなイノベーションを創出するため、最新鋭の研究・実験設備を備えた研究開発拠点「イノベーションセンター」を本社敷地内に設置しています。研究開発部門の技術者約2,500人を集結し、事業領域を超えた製品・技術の開発を加速させます。



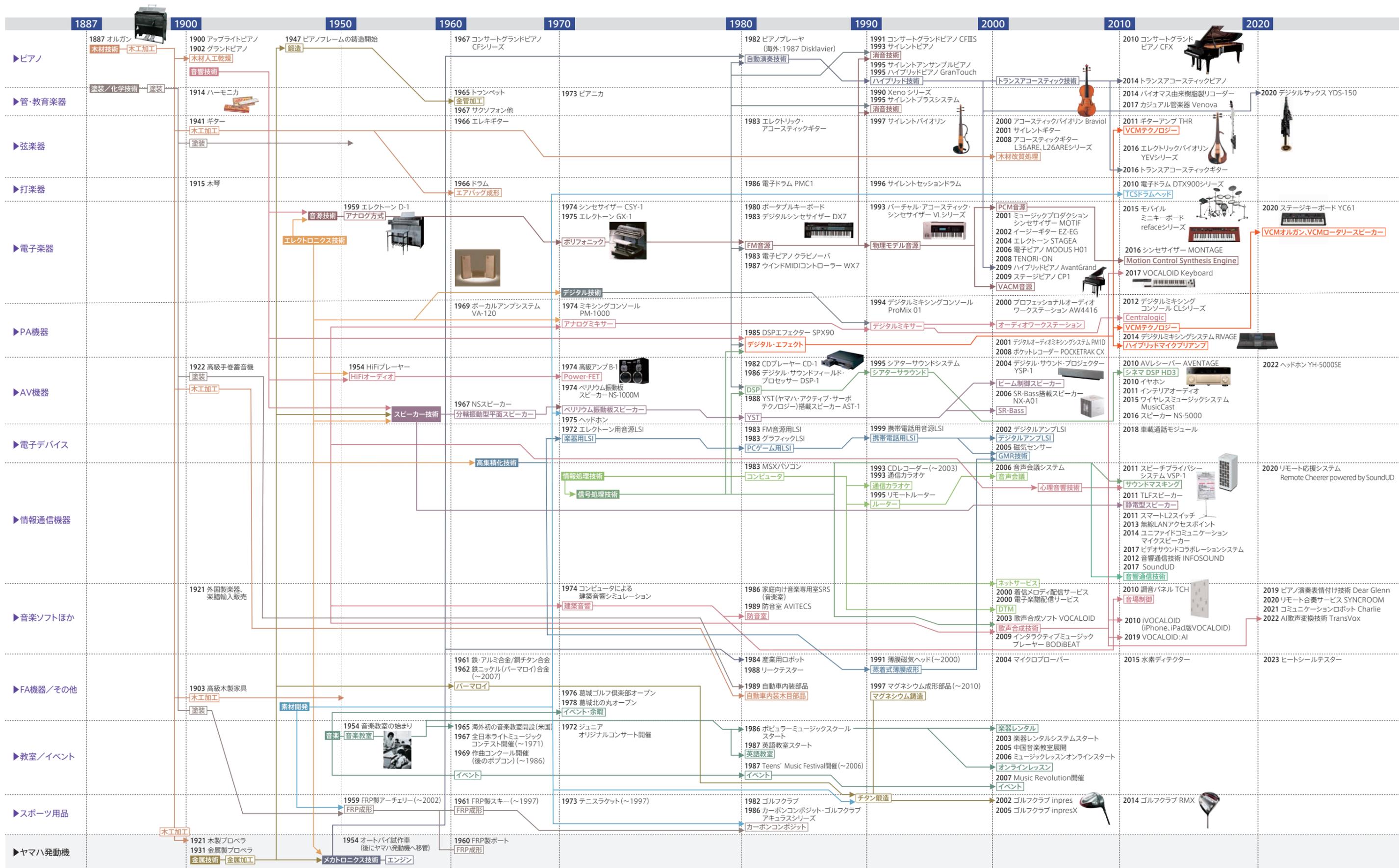
実験室

試作品の技術評価および官能評価を行うための最新鋭の設備を整備。各種スタジオ、楽器の試奏室、無響室、残響室、振動実験室などを設置しています。

(左) 無響室 壁面に吸音体を設け、音の反響を極限まで抑えた測定室
(右) 残響室 建築内装材の吸音率や音源の音響パワーレベル測定に使用

製品と技術の歴史

Product and Technology Timeline



サステナビリティ *Sustainability*

ヤマハグループは、世界中の人々のこころ豊かな暮らしの実現を目指し、音楽文化の普及・発展への貢献や、地球規模の環境問題や社会課題への対応を通じて、持続可能な社会構築のための活動 —サステナビリティ活動— に取り組んでいます。

ヤマハグループサステナビリティ方針

ヤマハグループは、長い歴史の中で、自然、社会、文化との繋がりを意識しながら、人々の「こころ豊かな暮らし」を願い、さまざまな取り組みを行ってきました。木材をはじめとする自然素材を多く用い、匠の技により丁寧に仕上げられた製品は、世代を超えて引き継がれ、さらには、リニューアールされることで新たな命を与えられ、多くの人々に親しまれてきました。また、単に製品を販売するだけでなく、世界中の様々な国と地域で、自らの事業として、音楽文化の普及・発展に貢献してきました。それは、子供たちの器楽教育普及、音楽教室展開からトップアーティストのサポートに至るまで、実に幅広い活動です。こうした想いや取り組みは社会のサステナビリティに通じるものであり、130年を超える歴史の中で綿々と引き継がれ「ヤマハラしさ」を形造ってきました。

ヤマハグループサステナビリティ方針

ヤマハグループは、世界中の全ての人々が心豊かに暮らす社会を目指します。その実現のために、企業理念である「ヤマハフィロソフィー」を心のよりどころに、かけがえのない地球環境を守り、平等な社会と快適な暮らし、心潤す音楽文化の発展に貢献するとともに、人権尊重はもとより、多様な人材が互いに認め合い活躍できる環境を整えることで、未来に

向かって新たな感動と豊かな文化を世界の人々とともに創りつづけます。この考え方に基づき、持続可能な社会の実現に向けた取り組みによる社会価値の創造を通じ、自らの中長期的な企業価値を高める為、マテリアリティを特定し、積極的にサステナビリティ活動を推進します。



環境に配慮した事業活動の展開

「ヤマハグループ環境方針」に基づき、事業活動における環境負荷の低減、環境に配慮した製品・サービスの提供、環境貢献活動を進めています。ISO14001認証取得など環境マネジメント体制を整備し、温室効果ガス排出削減や環境汚染防止、木材資源の保全、エコプロダクツ推進などにグループ一体となって取り組んでいます。

温室効果ガス排出削減の取り組み

ヤマハグループは「気候変動への対応」をマテリアリティとして特定し、経営重点テーマとして位置付けています。現在、SBT (Science Based Targets) イニシアチブが認定した1.5°C目標に沿ってバリューチェーン全体の温室効果ガス排出量の削減に取り組んでおり、2023年6月には2050年までにネットゼロを実現する計画の策定をコミット (宣言) しました。2021年にはヤマハ (株) 本社事業所の購入電力を100%再生可能エネルギー電力に切り替えたほか、2022年よりインターナルカーボンプライシング (社内炭素税) 制度を本格導入しました。



持続可能な木材資源利用に向けた取り組み

楽器製造を中心に多種多様な木材を使用するヤマハグループは、木材資源の持続的な活用に向けた取り組みを進めています。「おとの森プロジェクト」では地域社会と一体となり、持続可能な森をつくるための調査研究、社会実装を行っています。タンザニアでは2015年、木管楽器に使われる希少木材「アフリカン・ブラックウッド」の調査を開始しました。2016年からは国際協力機構 (JICA) の民間連携事業として、現地NGOと連携した住民参加型森林保全による安定調達に向けたビジネスモデルを構築。対象地域で立ち上げた定期的な植林活動により、2023年3月現在累計約15,000本 (面積約8.5ha) の苗木を植栽しました。北海道では、かつてピアノの響板に使用されていたアカエゾマツを対象に、2016年より地域の企業・自治体と協力し、楽器用材として育てていくための人工林の施業方法の研究や植樹活動などを行っています。



2018年1月にタンザニアで実施した苗木の植え付け

また、希少木材への取り組みと並行して、調達する全ての木材に対する包括的なリスク評価 (木材デューティリジェンス) も実施。違法伐採や無計画な乱伐による木材の調達を防ぐために、毎年調査しています。さらに、専門機関と連携して「持続可能性に配慮した木材」の自社基準を制定し、2025年3月期までに基準適合率75%の達成を目指しています。



2021年、ヤマハ (株) と北海道でサステナブルな森林育成等の取り組みにおける包括連携協定を締結

社会課題を見据えた製品・サービスの開発

当社の持つ多彩な技術を生かし、さまざまな社会の課題を解決し、新たな価値を生み出す製品・サービスの開発を進めています。

スマートフォンで利用できる業務用インターホンサービス

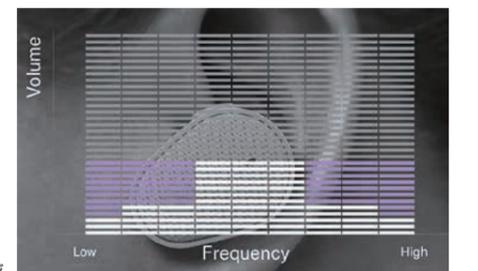
音のユニバーサルデザイン化を実現するための技術「SoundUD」を活用した、スマートフォンで利用できる業務用インターホンサービス「スマホでインターホン」を開発。音声での対話に加え、キーボード入力による文字でのやり取りや自動翻訳機能で多言語にも対応するなど、外国人や聴覚障がい者の方も利用できます。手軽に導入できることから、商業施設の売り場での遠隔対応、無人カウンターからの問い合わせ対応、自治体の出張所等の遠隔対応など、多様な用途に活用が可能です。なお、2023年11月より、各座席から乗務員の呼び出しができる「東海道新幹線サポートコールサービス」、共有スペースから利用できる「東海道新幹線多目的室内サービス」に活用されます。



キーボード入力機能、自動翻訳機能の利用イメージ (左) とSoundUDトリガーボード (右)

耳への負担を抑える独自技術「リスニングケア」で難聴リスクを低減

WHO (世界保健機関) は、世界の若者 (12~35歳) のおよそ半数にあたる約11億人に難聴のリスクがあると指摘しました。人は音量を下げてと低域と高域が聴こえにくくなることから、つい音量を上げてしまいがちです。ヤマハのイヤホンに搭載された独自技術「リスニングケア」は、音量に応じて音のバランスを最適化し、音量を抑えても自然で聴きやすい音を再現することで、音量を過度に上げることによる耳への負担を軽減することができ、音楽を楽しむことと聴覚保護の両立を実現しています。



リスニングケアのイメージ

音楽文化の発展と豊かな社会づくりへの貢献

ヤマハグループは、音・音楽で培った技術と感性を生かし、より多くの人々が音楽を楽しむことのできる機会づくりや活動支援、音楽、スポーツなどを通じたコミュニティー活性化への取り組みなど、さまざまな活動を実施しています。

楽器を使った活動でこころの豊かさを育む「スクールプロジェクト」

音楽や楽器演奏を通じて、子どもの社会性や人間性を育む「スクールプロジェクト」を新興国で展開しています。現地政府と連携し、楽器に触れる機会に恵まれなかった子どもたちに演奏の楽しさを知ってもらうと同時に、教員養成や教材の提供により、誰もが継続的に質の高い音楽教育を受けられる環境づくりを支援しています。2023年3月末までに、インドネシア・マレーシア・ベトナム・アラブ首長国連邦等で約202万人の子どもたちが学習機会を享受できる環境整備を支援。文部科学省による「令和4年度EDU-Port ニッポン応援プロジェクト」として、エジプト・ブラジル・インド3カ国での事業が採択されました。2023年4月にはインド・デリーの公立初等学校でリコーダーを使った音楽の授業が開始されるなど、さらに活動を拡大しています。



インド公立初等学校での授業の様子(提供:デリー公立初等学校)

青少年育成のためのオーケストラ・バンド活動支援

犯罪や貧困、格差が深刻な社会問題となっている中南米では、子どもたちが犯罪・非行・暴力に走ることなく健全な精神を育めるよう、国の政策で無償の音楽教育活動が進められ、青少年育成を目的としたオーケストラやバンドが結成されています。ヤマハは「AMIGO Project」を通じて支援活動を行い、子どもたちに楽器のメンテナンス方法を伝授できるよう指導者向けワークショップを開催するほか、楽器の修理に対応できる技術者の育成を推進するなど、より良い環境で子どもたちが演奏を楽しめるようサポートしています。現在、メキシコ、エルサルバドル、コスタリカ、パナマ、ドミニカ共和国、コロンビア、ペルー、ブラジルの8カ国で展開しています。



ヤマハ・ミュージック・ラテンアメリカが支援する吹奏楽団

「だれでもピアノ」で多くの人にピアノを弾く楽しさを提供

ピアノを弾くことを夢見る身体障がいのある高校生の願いをきっかけに、東京藝術大学COI拠点とヤマハ(株)は、自動伴奏追従機能を搭載した指一本でも楽しめる「だれでもピアノ」を共同開発。オンラインによる遠隔演奏も実現しました。音楽教育やワークショップで活用するほか、ピアノレッスンを通じた高齢者のウェルビーイングに関する研究など、東京藝術大学「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点*」が提唱する「文化的処方」のツールとしてさらなる活用を推進しています。

*共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点:2021年11月からヤマハが参画する「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」のプロジェクト



イベントで「だれでもピアノ」の演奏を楽しむ子どもたち

ヤマハ吹奏楽団による活動

1961年に創部し60年を超える歴史を持つヤマハ吹奏楽団は、ヤマハグループの従業員によって構成され、メンバーの多くが楽器製作に携わっていることから「匠のバンド」とも称されています。浜松での定期公演やヤマハ野球部の応援演奏、国内外のコンサートやコンクール出場などに加え、演奏活動を通じた地域への貢献を図っています。2022年には、「第70回全日本吹奏楽コンクール」で通算35回目の金賞を受賞したほか、これまでにCDアルバム「ヤマハのオト～奏でる匠のオト～(I～III)」を発売し、売上金の一部は日本赤十字社を通じて寄付をしています。



毎年春に浜松で開催する「ヤマハ吹奏楽団定期演奏会」

ヤマハ野球部による野球教室

1958年に創部したヤマハ野球部は、静岡県を代表する企業チームとして、浜松市をはじめ地域社会からも大きな期待が寄せられています。また、静岡県内での野球教室の開催など、地域におけるスポーツ振興の取り組みに積極的に協力しています。野球教室では少年野球チームへの技術指導のほか、幼稚園での「ティーボール教室」などを行い、現役選手が子どもたちと交流を深めながら野球の楽しさを伝えることで、次世代の健全育成に貢献しています。



子どもたちを指導するヤマハ野球部員

多様性の尊重と働きがいのある職場環境づくり

ヤマハグループでは、企業としてのさらなる成長・発展を目指し、ともに働く人々が感性・創造性を十分に発揮できる環境整備に努めています。

働きがいの向上

ヤマハグループで働く従業員一人一人が存分に能力を発揮し、自己実現を図りながらプロフェッショナルへと成長することを後押しすることで、ヤマハで働く価値の創出に努めています。教育・研修制度については、人事部や各部門が主体となり、階層別教育や機能別専門教育研修を整備・運用するとともに、担当者間でのベストプラクティス共有や協力体制構築を通じ、人材教育の質向上を図っています。

また、従業員の自律的なキャリア開発の支援を強化しています。2023年3月期には、年1回の上司・部下間のキャリア面談をより有意義なものにするために、自律的キャリア開発ワークショップやキャリア開発支援者研修を新規に立ち上げました。現在は、新たなキャリア自己申告の仕組みと、その基盤としてのタレントマネジメントシステムの導入を進めており、従業員の保有スキルや希望キャリアを踏まえた適所適材配置の実現を図っています。

人権尊重とDE&Iの推進

ヤマハは「人権尊重」を企業活動の基盤と捉え、多様性を尊重し多様な人材を包摂する環境整備に努めています。人材育成においては、女性リーダーの継続的育成・創出により経営層・管理職層の多様性を高めるために、「女性活躍推進部会」で定期的に経営層と議論し、さまざまな施策を主導しています。その結果、管理職の女性比率は2023年3月期、グローバルで17.3%(2022年3月期16.5%)に進歩しました。

また、グローバルな事業展開に対応した国籍にとらわれない人材活用を推進しています。全拠点の人材を対象とした選抜従業員向け研修に加え、2023年3月期には国際間異動ルールを制定し、クロスボーダー配置の推進基盤を整備しました。今後、グローバルにマネジメントを担える人材の計画的な育成・配置をさらに推進していきます。その他にも、国際女性デーやプライド月間を祝う取り組みなどを通じて、社会的マイノリティへのサポートに関する発信にも力を入れています。これらの取り組みが評価され、性的マイノリティに関する取り組みの評価指標「PRIDE指標」で4年連続最高位「ゴールド」を受賞したほか、Equileap社による「Global Gender Equality Ranking 日本企業ジェンダー平等ランキング」では8位(2022年)となりました。

風通しが良く、皆が挑戦する組織風土の醸成

従業員が仕事・プライベート両面の充実と心身の健康増進を図りながら、いかに能力を発揮し挑戦できる組織を目指し、風土醸成や制度・職場環境づくりに取り組んでいます。風土醸成の面では、毎年実施している従業員サーベイの結果分析を通じ、活発なコミュニケーションが従業員および組織の活力最大化の土台になると考え、縦・横・斜めの「対話」の機会を拡充しています。社長の職場訪問等の全社活動や各職場で実施する組織開発活動を有機的につなげ、風通しが良く、失敗を恐れず挑戦できる組織風土の醸成を目指しています。制度の面では、テレワークをはじめ勤務形態の柔軟化を図る制度が定着し、2023年4月には「副業に関するガイドライン」を整え、従業員の働き方や自己実現の選択肢を拡充しています。

職場環境の整備では、「安全と健康は全てに優先する」という基本方針のもと、事業活動に関わる全ての人の安全確保と、従業員およびその家族の健康保持・増進のための諸施策に取り組んでいます。定期健康診断や喫煙対策などの取り組みが評価され、東京証券取引所の上場会社の中から「健康経営」に優れた企業を選定する「健康経営銘柄」にヤマハ(株)が2年連続で選定されました。経済産業省・日本健康会議主催の「健康経営優良法人認定制度」でも「健康経営優良法人(ホワイト500)」に認定されています。



若手従業員を対象としたキャリアデザイン研修



中国生産拠点4社から選抜された工場監督候補者向け研修



国際女性デーに合わせて開設した音楽教育に取り組む女性たちを紹介するインタビュー企画「Women Who Make Waves 2023」



「PRIDE指標」の「ゴールド」マーク



PRIDE月間を祝う一環としてオリジナルシャツを着用した人事・DE&I推進担当者



次世代育成支援対策推進法に基づく認定マーク「プラチナくるみん」



(左) 従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に「健康経営」を実践する企業として「健康経営銘柄」に選定
(右) ヤマハ(株)のほか、(株)ヤマハコーポレートサービスも「健康経営優良法人(ホワイト500)」に認定

主要ネットワーク

国内ネットワーク (2023年9月30日現在)

事業内容

- 販売・サービス ● 製造・開発等 ● 音楽ソフト関連
- ヤマハミュージックリテイリング店舗 (全国合計28店)



海外ネットワーク (2023年9月30日現在)



会社名	所在地
1 北見木材株式会社	北海道紋別郡
2 桜庭木材株式会社	秋田県北秋田市
3 株式会社ヤマハミュージックジャパン	東京都港区
4 株式会社ヤマハミュージックリテイリング	東京都港区
5 ヤマハサウンドシステム株式会社	東京都中央区
6 株式会社ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	東京都豊島区
7 株式会社ヤマハミュージックコミュニケーションズ	東京都豊島区
8 株式会社ヤマハリゾート	静岡県袋井市
9 株式会社ヤマハミュージックマニュファクチャリング	静岡県磐田市
10 ヤマハハイテックデザイン株式会社	静岡県磐田市
11 ヤマハピアノサービス株式会社	静岡県浜松市
12 株式会社ヤマハコーポレートサービス	静岡県浜松市
13 株式会社ヤマハアイワークス*1	静岡県浜松市
14 ヤマハファインテック株式会社	静岡県浜松市

*1 非連結子会社、関連会社

企業ミュージアム・ピアノ工場見学のご案内

イノベーションロード
 ヤマハ本社事業所 21号館内(浜松市)
<https://www.yamaha.com/ja/about/innovation/>

ピアノ工場見学
 ヤマハ掛川工場 ハーモニープラザ(掛川市)
https://www.yamaha.com/ja/about/locations/piano_factory_tour/

※見学は予約制です。予約方法、見学実施日等、詳しくは上記QRコード、URLからご確認ください。



「感動」を世界の人々にお届けする、ヤマハ株式会社とヤマハ発動機株式会社

ヤマハ株式会社(当時の日本楽器製造株式会社)の金属加工技術、メカトロニクス技術から生まれたオートバイ部門が分離独立し、1955年、ヤマハ発動機株式会社が誕生しました。両社の経営は互いに独立していますが、ともに掲げる「お客様とともに感動を創り、こころ豊かな生活を実現し、社会と文化に貢献する」という「ヤマハ」ブランドの使命を実現するため、ヤマハは音・音楽を、ヤマハ発動機は多様なモビリティの提供を中心に、それぞれの事業活動を通じてさらなる成長を目指しています。



音叉マークに込められた意味

3本の音叉*でヤマハの「技術」「製造」「販売」の3部門の強い協力体制を表すとともに、音叉に象徴される音・音楽を中心に世界(外円)に伸びゆくヤマハのたくましい生命力を表しています。また、音楽の基本である「メロディー」「ハーモニー」「リズム」の調和という意味も込められています。

*音叉:主に鋼鉄で作られたU字型の棒の中央に柄を付けたもので、音の高さを合わせる調律などに使用する道具

会社名	所在地
1 Yamaha Corporation of America	アメリカ・カリフォルニア
2 Yamaha Guitar Group, Inc.	アメリカ・カリフォルニア
3 Córdoba Music Group, LLC	アメリカ・カリフォルニア
4 Yamaha Unified Communications, Inc.	アメリカ・マサチューセッツ
5 Yamaha Artist Services, Inc.	アメリカ・ニューヨーク
6 Yamaha Canada Music Ltd.	カナダ・トロント
7 Yamaha de México, S.A. de C.V.	メキシコ・メキシコシティ
8 Yamaha Music Latin America, S.A.	パナマ
9 アルゼンチン支店	アルゼンチン・ブエノスアイレス
10 Yamaha Musical do Brasil Ltda.	ブラジル・サンパウロ
11 Yamaha Music Europe GmbH	ドイツ・レリゲン
12 フランス支店	フランス・クロワシーボーブール
13 イタリア支店	イタリア・ミラノ
14 イベリカ支店	スペイン・マドリッド
15 UK支店	イギリス・ミルトンキーンズ
16 スカンジナビア支店	スウェーデン・ヨーテボリ
17 スイス支店	スイス・チューリッヒ
18 オーストリア支店	オーストリア・ウィーン
19 ベネルクス支店	オランダ・ニューウェーグ
20 ポーランド支店	ポーランド・ワルシャワ
21 Steinberg Media Technologies GmbH	ドイツ・ハンブルク
22 Nexo S.A.	フランス・ブライー
23 L. Bösendorfer Klavierfabrik GmbH	オーストリア・ウィーン・ノイシュタット
24 台湾山葉音楽股份有限公司	台湾・新北
25 雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司	中国・上海

会社名	所在地
26 雅馬哈楽器技術培訓(上海)有限公司	中国・上海
27 雅馬哈貿易(上海)有限公司	中国・上海
28 雅馬哈電子(蘇州)有限公司	中国・蘇州
29 蕭山雅馬哈楽器有限公司	中国・杭州
30 杭州雅馬哈楽器有限公司	中国・杭州
31 天津雅馬哈電子楽器有限公司	中国・天津
32 深圳雅馬哈楽器音響貿易有限公司*1	中国・深圳
33 Yamaha Music Korea Ltd.	韓国・ソウル
34 Yamaha Music (Asia) Pte. Ltd.	シンガポール
35 Yamaha Music (Malaysia) Sdn. Bhd.	マレーシア・ベタリンジャヤ
36 Yamaha Electronics Manufacturing (M) Sdn. Bhd.	マレーシア・イポー
37 PT. Yamaha Indonesia	インドネシア・東ジャカルタ
38 PT. Yamaha Music Manufacturing Indonesia	インドネシア・東ジャカルタ
39 PT. Yamaha Musik Indonesia (Distributor)	インドネシア・中央ジャカルタ
40 PT. Yamaha Music Manufacturing Asia	インドネシア・プカシ
41 PT. Yamaha Musical Products Asia	インドネシア・プカシ
42 PT. Yamaha Musical Products Indonesia	インドネシア・パスルアン
43 PT. Yamaha Electronics Manufacturing Indonesia	インドネシア・パスルアン
44 Siam Music Yamaha Co., Ltd.*1	タイ・バンコク
45 Yamaha Music Vietnam Company Ltd.	ベトナム・ホーチミン
46 Yamaha Music Philippines Inc.	フィリピン・マカティ
47 Yamaha Music India Pvt. Ltd.	インド・グルグラム*2
48 Yamaha Music Gulf FZE	UAE・ドバイ
49 Yamaha Music (Russia) LLC.	ロシア・モスクワ
50 Yamaha Music Australia Pty. Ltd.	オーストラリア・メルボルン

*2 製造拠点はインド・チェンナイ

ヤマハの沿革

- 1887 山葉寅楠が浜松の小学校でオルガンを修理、同年にオルガン製作に成功


- 1889 当社の前身である合資会社山葉風琴製造所を設立
- 1897 日本楽器製造(株)を資本金10万円にて設立

- 1900 ピアノの製造を開始


- 1949 東京証券取引所に株式を上場
- 1954 「ヤマハ音楽教室」の前身となる教室を開講
オーディオの製造を開始(HiFiプレーヤー)

- 1955 オートバイ部門をヤマハ発動機(株)として分離
- 1958 メキシコに販売子会社ヤマハ・デ・メヒコを設立

- 1959 スポーツ用品の製造を開始
電子オルガン(エレクトーン®)の製造を開始
- 1960 米国に販売子会社ヤマハ・インターナショナル・コーポレーション(現ヤマハ・コーポレーション・オブ・アメリカ)を設立
- 1962 リゾート事業を開始
- 1964 リビング用品の製造を開始(FRP製バスタブ)
※2010年リビング事業子会社の株式を譲渡
- 1966 管楽器の製造を開始

財団法人ヤマハ音楽振興会発足(2011年、一般財団法人に移行)
西ドイツ(当時)に販売子会社ヤマハ・ヨーロッパを設立
- 1968 日本初の株式時価発行を実施

- 1972 半導体の生産を開始
※2015年ファブレス化
- 1974 インドネシアにピアノ製造子会社 ヤマハ・インドネシアを設立
- 1980 ヤマハピアノテクニカルアカデミーを設立

- 1987 創業100周年を機に、社名を日本楽器製造(株)からヤマハ(株)に変更
ヤマハ英語教室を開始
- 1989 中国に電子楽器製造・販売子会社天津ヤマハ電子楽器を設立
- 2002 中国に投資管理会社 ヤマハ楽器音響(中国)を設立
ドイツに欧州統括会社ヤマハ・ミュージック・ホールディングス・ヨーロッパ(現ヤマハ・ミュージック・ヨーロッパ)を設立
- 2005 ドイツの音楽制作用コンピューターソフトウェア開発・販売会社 Steinbergを買収
- 2007 音楽ソフト事業統括会社(株)ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングスを設立
- 2008 オーストリアのピアノメーカー Bösendorferを買収
フランスの業務用スピーカー製造・販売会社 Nexoを買収
- 2010 ヤマハ銀座ビルをリニューアルオープン
ピアノ国内生産拠点を掛川工場へ統合

- 2012 管楽器国内生産拠点を豊岡工場へ統合
創業125周年
- 2013 国内の楽器・音響機器卸販売および教室事業を行う(株)ヤマハミュージックジャパンを設立
- 2014 米国の楽器・音響機器メーカー Line 6(現ヤマハ・ギター・グループ*)を買収
*2018年 Ampegブランド、2023年 Córdobaを買収
米国の通信・音響機器メーカー Revolabs(現ヤマハ・ユニファイド・コミュニケーションズ)を買収
国内における楽器・音響機器の生産事業を製造子会社に承継
- 2018 研究開発拠点イノベーションセンターを開設

- 2021 ヤマハ銀座店を「ブランドショップ」としてリニューアルオープン

会社情報

会社概要 (2023年3月末現在)

会社名	ヤマハ株式会社
本社	静岡県浜松市中区中沢町10番1号
創業	1887年(明治20年)
設立	1897年(明治30年)10月12日
代表執行役社長	中田 卓也
資本金	285億34百万円
連結売上高	4,514億10百万円
連結従業員数	20,027人(ほか平均臨時雇用者数8,225人)
地域別従業員数	日本 5,573人、北米 820人、欧州 1,096人、中国 4,983人、その他 7,555人
子会社数	63社(うち連結対象58社)
関連会社数	4社
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場(証券コード7951)
Webサイト	https://www.yamaha.com/ja/

役員 (2023年6月23日現在)

取締役		
取締役	中田 卓也	指名委員、報酬委員
取締役	山畑 聡	
社外取締役	日高 祥博	指名委員、報酬委員
社外取締役	藤塚 主夫	監査委員(委員長)
社外取締役	ポール・キャンランド Paul Candland	指名委員、報酬委員(委員長)
社外取締役	篠原 弘道	指名委員(委員長)、報酬委員
社外取締役	吉澤 尚子	監査委員
社外取締役	江幡 奈歩	監査委員

執行役		
代表執行役社長	中田 卓也	
常務執行役	山畑 聡	コーポレート本部長
常務執行役	山口 静一	楽器事業本部長
執行役	山浦 敦	楽器・音響営業本部 副本部長
執行役	押木 正人	楽器・音響営業本部長

ヤマハフィロソフィー

「ヤマハフィロソフィー」は、「企業理念」「顧客体験」、そして「ヤマハクオリティー(品質指針)」「ヤマハウェイ(行動指針)」からなるヤマハグループの理念体系です。
私たちは、常にヤマハフィロソフィーを心のよりどころにしながら、お客様の視点に立ち、期待を超える製品とサービスを生み出すことで、未来に向かって新たな感動と豊かな文化を創りつづけます。

- ◆ **企業理念**
ヤマハグループは何のために存在するのか、何に向かって仕事や経営を行うのかを示しています。
- ◆ **顧客体験**
企業理念をお客様の視点から具体的に示したもので、お客様がヤマハグループの製品・サービスを手にし、使用された時に、心と五感で感じていただくことができる体験を明示したものです。
- ◆ **ヤマハクオリティー (品質指針)**
企業理念を具現化するために、製品・サービスに込めたこだわりや、モノづくりに対する基本的な考え方を指針として示しています。
- ◆ **ヤマハウェイ (行動指針)**
企業理念を具現化するために、ヤマハグループの全従業員が日々、何を意識し、どのように行動すべきかを指針として示しています。

